



学校だより

あいかわ

鈴鹿市立合川小学校

No. 6

令和5年7月11日

## 令和6年度4月から複式学級(2・3年生)が始まります

合川小学校の児童数は年々減り続け、現状では令和6年度の2・3年生(現1・2年生)が複式学級として1学級になる見込みです。

複式学級の設置は、国の学級編成に関する法律(法令)で定められている「2つの学年の児童数の合計が16人以下(1年生を含む場合は8人以下)で複式学級とする」という基準によるものです。複式学級になると、一人の担任が1つの教室で2つの学年の子どもたちを担当することになります。学年をこえた学習集団になることで、「多様な考え方に触れやすくなる」、「リーダー性や自主性が育ちやすい」などの長所が見込まれる一方で、「子どもが教師に直接指導を受ける時間が少なくなる」「学年差がある中での学習規律の定着が難しい」などの短所も考えられます。

複式学級は、児童数や教員数、施設設備等の条件により様々な形態がありますが、合川小学校では、子どもたちのより良い学びにつながる複式学級の在り方を、教育委員会と連携して検討していきます。

### 1.合川小の現状

合川小学校の現在の1・2年生は、1年生が6人、2年生8人で、あわせて14人です。1年生を含む場合は8人以下で複式学級になるため、本年度は複式学級になりませんでした。しかし、来年度は児童数が16人に満たないため、新2・3年生で複式学級となります。

### 2.複式学級の授業

複式学級の授業形態は多様にあり、学校の状況によって異なります。合川小学校が実施する複式学級の授業形態は、「わたり授業」・「単式授業」・「学年合同授業」が想定されます。それぞれの授業内容は以下の通りです。

“わたり授業”とは

一人の教師が2学年同時に別々の内容を指導します。教室内で学年別に児童を分け、教師が一方の学年から他方の学年へ交互に移動して「直接指導」と「間接指導」を繰り返します。教師が「直接指導」していないもう一方の学年は「間接指導」となり、課題を自力解決したり練習問題を行ったりします。

「わたり」の授業では、間接学習中に児童の代表が学習リーダーとなって教師の作成した学習指導計画を進める「リーダー学習」や「ガイド学習」が必要となります。一般的に学習リーダーは、児童が交代で務めます。

### “単式授業”とは

教師が2人体制で学年別に授業を行います。例えば、算数の授業であれば、同じ時間に2年生はA先生が授業を行い3年生はB先生が授業を行うといった、通常学級と同じ形態で行う授業です。また、指導者が2人いるので、同じ時間であっても異なる教科を指導することができます。（2年生は算数、3年生は国語等）

### “学年合同授業”とは

一人の教師が同じ教科の同じ教材を2学年同時に指導する授業形態です。道徳を例に挙げると、2・3年生が同じ教科書を使用して、同じ教材を一斉授業で学習します。この授業形態は、教科や単元、活動が限定的になりますが、学年をこえた多様な意見や考え方の交流を行うことができます。

## 3. 複式学級の長所と短所

複式学級になり、学年をこえた学習集団となることで、「多様な考え方にふれやすくなる」、「リーダー性や自主性・協調性が育ちやすい」、「異学年での教えあいによる学習理解が進む」などの長所が考えられます。

一方、教師がそれぞれの学年を交互に教える「わたり授業」の場合、「児童が教師に直接指導を受ける時間が少なくなる」、「個に合わせた学習や個別の支援が難しくなる」、「教師は2学年分の授業準備や教材研究・校務処理を行う必要があるため負担が大きい」などの課題が考えられます。また、「単式授業」の場合は、「少人数のため、学年をこえた多様な考え方が交流しづらくなる」、「教室移動が頻繁にあり、休み時間が削られるため2・3年生には負担が大きい」などの課題があります。

## 4. 複式学級設置に向けての今後の予定

合川小学校では、今後、複式学級の設置校を視察したり、県内外の複式学級の取組を参考にしたりしながら、複式授業の指導内容や指導方法、「わたり授業」や「学年合同授業」を行う際のポイント等について教職員の研修を行います。また、鈴鹿市教育委員会と連携して教育環境の整備、教育課程の作成を行います。その他にも3学期には、複式学級を想定した1・2年生の合同活動（朝の会、給食、帰りの会）や、算数等の教科で「わたり授業」を実際に行い、令和6年度の準備を行う予定です。

来年度から実施される複式教育は、合川小学校のみならず鈴鹿市で初めての取組になります。しかし、学級の形態が変わっても、「豊かな人間性とたくましい実践力を育む」ための合川小学校の実践は変わりません。今後も、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。